

研修会報告

令和3年6月29日

文責：千崎 久美子

研修会テーマ「令和2年度病理精度管理フォローアップ研修会」

開催日時 令和3年6月26日(土) 13:00～17:00

会場 ZoomによるWeb研修会

司会 諸橋 彰

生涯教育点数 専門教科 20点

参加者 会員参加者 22名 入会申請中会員 0名 非会員 10名(医師2名・メーカー8名)

賛助会員 0名 学生 0名

合計 32名

講演1 令和2年度病理精度管理調査報告・アンケート集計報告・検討報告」

東北大学病院 小泉 照樹 技師

仙台徳洲会病院 土田 吉朗 技師

講演2 「令和2年度精度管理調査 総評」「クロモグラニンについて」

大崎市民病院 谷内 真司 先生

講演3 メーカー講演

「加熱抗原賦活化処理の作用機序」

ニチレイバイオサイエンス

「新規抗体導入時の検討について」

ライカマイクロシステムズ

「免疫染色の今後の展望」

ロッシュ・ダイアグノスティックス

17:00 終了

内容

本会は、令和2年度宮城県臨床検査技師会による精度管理調査の報告とフォローアップを目的として開催した。

講演1では小泉技師よりクロモグラニンの免疫染色について、代表的な画像を提示し結果を報告した。申し込みが22施設あり、A判定15施設、B判定2施設、C判定2施設、D判定なしとなった。3施設が申し込み後にキャンセルとなり、募集要項をよく読んでから申し込むように促した。C判定となった2施設の再染色では、1施設では検出系の変更に伴い抗原賦活化処理を変えることによって改善が見られた。もう1施設は他社の抗体では良好に染めることができたが、通常使用の抗体では自施設の陽性コントロールはよく染まるものの他の検体ではばらつきがあり、染色工程ではなくプレアナリシスの問題が推測されたが原因は不明であった。これは外部精度管理に参加したからこそ露呈した案件であり、本会開催の意義は大きいと思われる。

その他、各施設で利用頻度の高い染色項目について問うたアンケートの結果を報告し、それに基づいて今後の精度管理項目を決定する際の参考にすることとした。

次に土田技師より、クロモグラニン染色について、「賦活処理法」「加熱処理時間」「加熱処理後の冷却時間」を変えての検討結果が発表された。質疑応答では冷却時間の長さや有無、pH7での検討について質問があり活発な意見交換を行うことができた。

講演2では監修医である大崎市民病院の谷内先生より「神経内分泌腫瘍」として、神経内分泌細胞の基礎から、腫瘍の分類、クロモグラニン以外の抗体についても、わかりやすくご講演いただき幅広く理解を深めることが出来た。合わせて今回のクロモグラニン染色の総評として病理医側の観点からご指導いただいた。質疑応答では分泌顆粒と非特異反応について議論した。

講演3では抗体や自動免疫染色装置を取り扱うメーカー3社の学術担当者より、抗原賦活処理や新規抗体導入時の検討の方法、コンパニオン診断、多重染色などを説明していただいた。質疑応答では、メーカー推奨条件があるのに各施設で検討するように言われるのはなぜか？や、加熱処理のEDTAの作用や界面活性剤の影響、pHを変えたらどうかなどの意見があり、討論が尽きることなく盛会裏に終了した。

今後も精度管理調査を通して、基礎から最新情報まで幅広く学べる研修会を企画・開催できるよう努めたい。